



かつらぎ通信



Nagasaki

Fruit Tree Experiment Station News

No. 3

2005.7



スモモ「太陽」の収穫

酸っぱくないスモモ

生産技術科科长 林田 誠剛

「すももももももものうち」

スモモもももも同じバラ科サクラ属ですが、亜属が異なり、実際にはスモモはモモに含まれるわけではありません。

スモモは中国長江流域が原産で、飛鳥時代から奈良時代に日本に渡来したと言われ、万葉集でも大伴家持がスモモを題材に詠んでいます。

「わが園のすももの花が庭に散るはだれのいまだ残りたるかも」（わが園の庭に散っているのは李の白い花なのだろうか、それともまだらの雪が残っているのだろうか）

このようにスモモは春まだ浅い3月に花を咲かせ、6月から8月にかけて収穫期を迎えます。

「スモモ」という呼び名は実の酸味が強いことから「酢桃」になり、それが漢名の「李」の音読みになったと言われていました。しかし、最近は「李王」や「太陽」など糖度が高く、酸味が少なく、従来の「酸っぱい」というイメージを払拭する新しい品種が育成されてきています。

長崎果樹試ではこれら新しい品種の適応性と平棚での栽培技術の確立のための試験を行っています。

スモモは果実酒としても優れた特性を持っています。特にソルダムのような果肉が赤い品種で作るとルビーのようなきれいな果実酒ができあがります。

スモモの果実を食べて味わい、スモモ酒にして芳醇な色と香りを楽しんでみてはいかがでしょうか？

研究成果

病害虫科 科長 早田 栄 一 郎



ヒノキきゅう果に形成される果樹カメムシ類の口針鞘数を指標とした果樹カメムシ類のミカンへの飛来予測



山林(ヒノキ)で増殖



ミカン園へ飛来・侵入

果樹カメムシ類はヒノキの実(きゅう果)を餌として増殖する。

ヒノキの実が餌とし不適になるとヒノキを離脱し、新たな餌を求めて移動する。

飛来・侵入時期が防除上、重要である。

成果の内容

カメムシが餌として利用できるヒノキきゅう果は、吸汁によって形成される口針鞘数25本/果までのきゅう果である。

25本/果を越えると離脱し、ミカン園へ飛来し、加害する。



口針鞘数を利用して、カメムシのミカン園への飛来が予測できる。



図1 ヒノキきゅう果とカメムシ幼虫

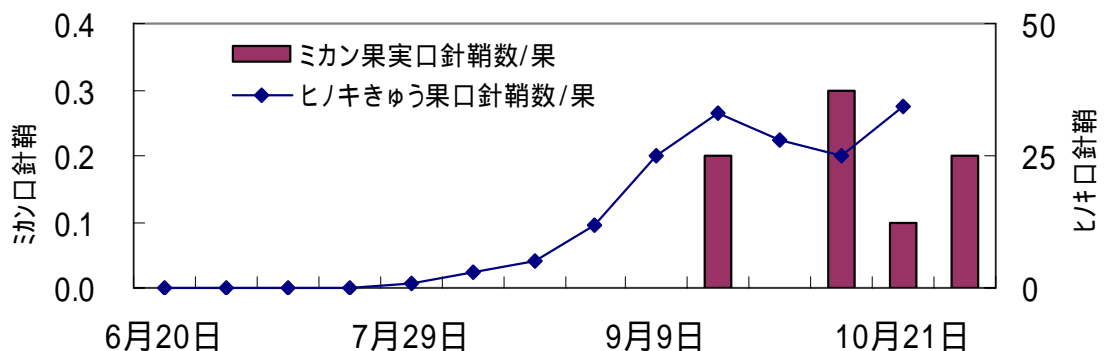


図2 ミカン果実口針鞘数とヒノキきゅう果口針鞘数の関係(2003年)

研究成果

生産技術科研究員 古川 忠



「させぼ温州」の芽かきとジベレリン散布による生理落果軽減技術



【背景・ねらい】

「させぼ温州」は、発生する芽の数が多く、着花しても生理落果しやすい性質があります。着果数が少ないと大玉果となり高品質な果実を安定生産できません。そこで、温州ミカンの落果防止として登録されている植物生育調節剤ジベレリンの実用性を検討しました。

【成果の内容】

満開7～8日後に芽かき処理した上で、ジベレリン（25～50ppm）を散布すると着果数および結実率が有意に高くなります（表1）。

表1 新しょう発生が多い樹に対する芽かきとジベレリン散布による生理落果軽減効果(2004)

処理	着果数(個/母枝)			結実率(%)
	有葉果	直花果	全着果数	
芽かき + ジベレリン50ppm	1.5a	0.5	1.9a	19.6a
芽かき + ジベレリン25ppm	1.4a	0.3	1.7a	18.5a
無処理	0.2b	0.1	0.3b	3.1b
有意性 z	**	ns	**	**

z **は1%水準で有意差あり。nsは有意差なし。

a～bは異なる文字間で有意差あり。

注)ジベレリンは5月12日(満開8日後)散布

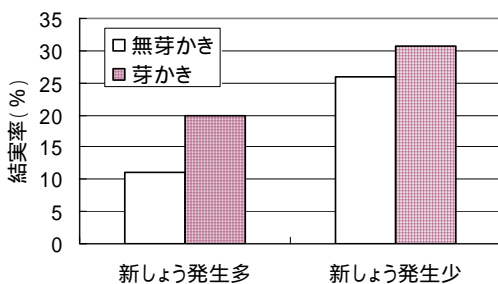


図1 新しょう発生程度異なる樹に対する芽かき効果(2003)

新しょう発生が多い樹は、少ない樹に比べ結実率が低くなります(図1)。

新しょう発生が多い樹に対して、芽かき処理すると結実率が向上します(図1)。

【成果の活用・留意点】

ジベレリンの散布は新しょう発生が多い樹に対して、幼果に充分量の薬液がかかるように散布します。

散布効果を高めるため、着花した周辺部の芽かきを行います。

本成果は、側枝単位で芽かきとジベレリン散布を行った結果です。

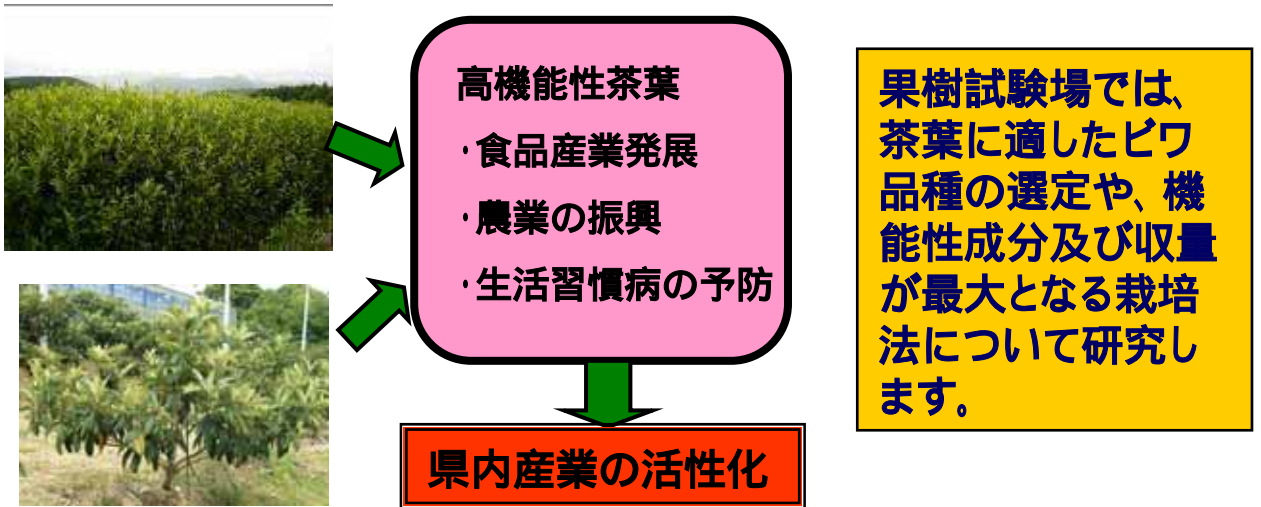




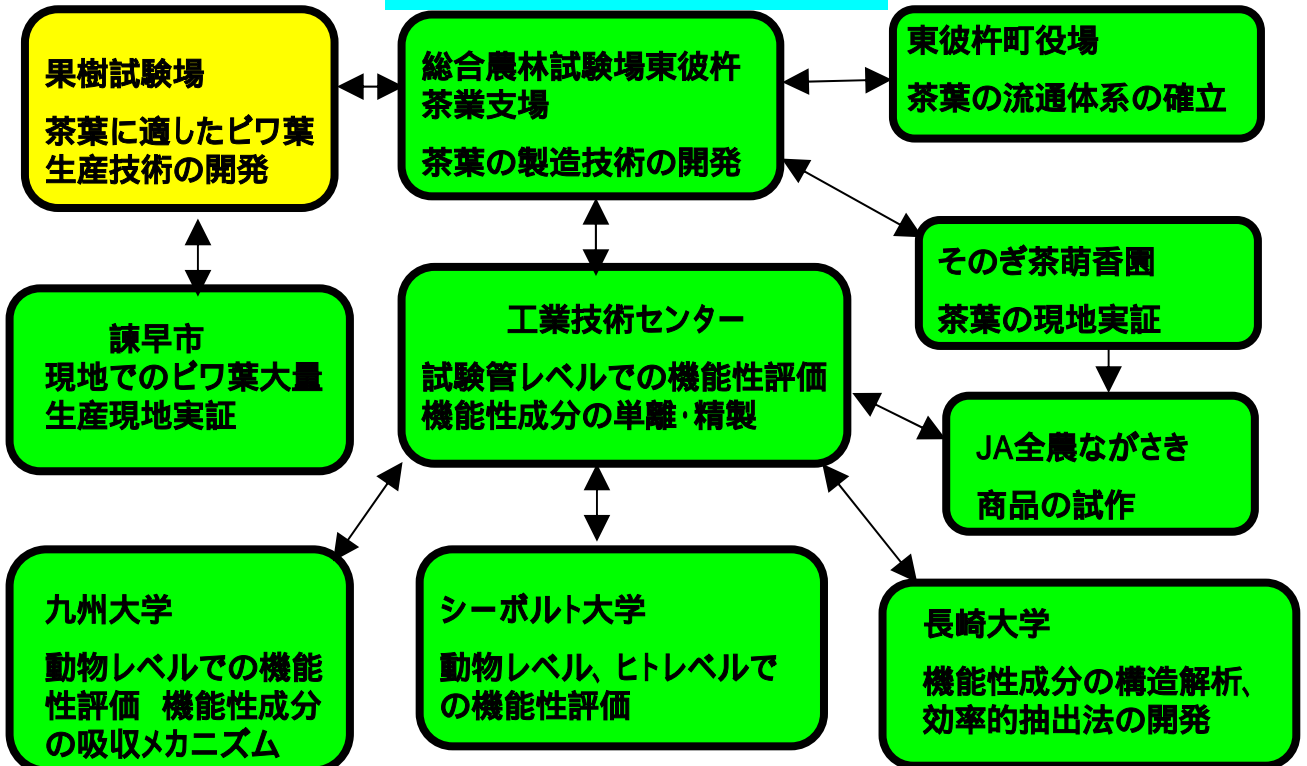
本県特産茶葉・ピワ葉の有効成分 を活用した高機能性茶葉の開発

この研究は総合農林試験場東彼杵
茶業支場をリーダーとして10の機関
が連携して行っています。
研究機関 H17～19年

刈り捨てられている緑茶生葉と十分に活用されていないピワ葉を有効利用し、
新たな健康機能性成分を含有した茶葉を開発します。



【プロジェクトの研究体制】



トピックス

記者発表(県庁)



ピワ新品種「麗月」の果実外観

ピワ新品種「麗月」が登録されました

「麗月」は農林水産省指定試験における第1次ピワ育種試験で育成された約5,000本の実生の中から選抜された品種です。交配は昭和51年、「森尾早生」に「広東」の組合わせで、大果、丸形、黄白色で甘くて柔らかな舌ざわりの個性的なピワです。平成14年に品種登録出願をしていますが、平成17年3月23日付けで正式に登録されました。

ピワ新品種「麗月」記者発表にマスコミの攻勢が

登録された新品種「麗月」の記者発表を4月14日に行いました。これにより「麗月」誕生のニュースはテレビ、新聞、ラジオなど報道各社から伝えられましたが、果樹試験場からの生中継も行われ、新品種の全国への広がり期待を込めてPRを行いました。



NBCラジオ スキッピーさんの取材



NHK長崎放送局 「もってこい長崎」の中継

長崎県果樹品種研究会の立ち上げ会

17年3月23日に長崎県果樹新品種研究会の立ち上げ会を果樹試験場で行いました。この会は現地試験などを通じて、果樹の品種に関心が強い果樹生産者や技術者が情報を交換し、有望新品種の早期導入、産地拡大を図ろうとするもので、100名近くの会員加入がありました。



果樹品種研究会の意義について説明する育種科長

17年度県果樹技術者協議会研修会で成果情報の報告

17年6月3日に諫早市で開催された長崎県果樹技術者協議会研修会において、果樹試験場が16年度に試験研究結果で得た「普及に移せる情報」など23課題のうち8課題をパワーポイントもちい説明をしました。説明の後は熱心に質疑応答がなされ、現場での成果の利活用が期待されます。



16年度の試験研究成果情報を説明

よもやまばなし



ハリウッド
画 古賀恵美子

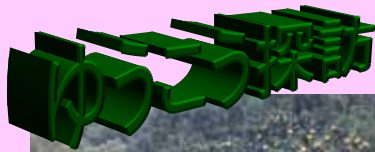
スモモのお見合い

最近の甘くて大きい高級なスモモは、まず、自分の花粉では結実しない。かといって、他の品種の花粉ならなんでもいいという訳でもない。その最たるものが「貴陽」である。

発芽率を調べるため顕微鏡で花粉を見ると「貴陽」は花粉管が伸びないものがほとんどであり、花粉管がばりばり伸びる「ハリウッド」が今のところ「貴陽」の受粉樹である。しかし、「ハリウッド」は真っ赤でアメリカンチェリーみたいで、見た目かわいいが、味は薄くて、素っ気ない。

いくら精力旺盛だってさあ、もっと食べてもおいしい品種で受精してよ、ということで他の優良品種を昨年から交配してきている。「ハリウッド」でも実止まり率は7%くらいで低いのだが、それを上回るものにはまだ出会っていない。今のところ「李王」が2番手くらいである。

生産技術科 谷本恵美子



(第2話)「ゆうこう」の古木分布の謎

育種科科长 根角博久



長崎市大籠(おおごもり)町の城山の中腹に善長谷(ぜんちょうだに)教会という小さな教会があります。

前方に西彼杵半島、高島、端島(軍艦島)が見える風光明媚な教会の周囲に、なぜか「ゆうこう」の巨木が複数点在しています。

いくつかは竹藪の中に放置され、その存在も忘れかけていましたが、その内の一樹は野菜畑の隅の比較的条件の良いところにあり、のびのび枝を張り、たわわに実を着けていました(写真左)。収穫をして善長谷出身者が経営する市内の料亭?で使うということで、おそらく長崎県下で唯一経済的に使われてきた古木です。

古木の調査が一段落し香酸カンキツ「ゆうこう」は、長崎市南部の特定の地域だけに分布すると考えていたところ、外海町の出津(しつ)にも同じものがあるという情報が飛び込んできました。

昨年12月に調査したところ、確かに幹周が100cmを超える善長谷教会の「ゆうこう」と同時期に芽生えたと思われる古木が現存していました。出津でも「ゆうこう」は「ゆうこう」と呼び、かなり昔から使われていたということなのですが、それぞれの地域の方がお互いにそのことを知らず、私たちの調査をきっかけにして始めて認知されることになりました。両地域の古木の大きさや分布域の広さの比較から、出津よりも長崎市南部の方が「ゆうこう」の歴史は古そうです。

さて、外海町では「ゆうこう」は、フランスから来日したマルコ・マリ・ド・ロ神父により広められたのではないかと考えている人がいます。

1968年(慶応4年)に長崎に渡来したド・ロ神父は、1879年(明治12年)に主任司祭として外海町に赴任して以来、隠れキリシタンの里で山が海岸まで迫り耕作地が少なく厳しい生活を強いられてきたこの地に教会を造り布教されるとともに、授産場やイワシ網工場を建設して、クレソンを導入したり、そうめん、パン、マカロニの製法を広めるなど産業を興して地域を豊かにすることに尽力された方です。1914年(大正3年)になくなっていますが、今でも「ド・ロ様セリ」、「ド・ロ様そうめん」などとして受け継がれています。



現存する「ゆうこう」の古木の樹齢は100年程度で、枯死したという大きな木が120年生程度であったとすると、確かにド・ロ神父が活躍された時期の晩年と重なります。

文献的な記録も今のところ見あたらず伝承もあやふやなため、確証はありません。

しかし、善長谷教会と出津の教会、同じ信仰を持つ人たちの情報交換があったかもしれませんし、外海町の「ゆうこう」についてはド・ロ神父と共に町の発展を考えた人達が、長崎市南部で広がっていた「ゆうこう」を持ち込んで種を播いたとしても不思議ではありません。ド・ロ神父が「ゆうこう」を使って産業化することを考えることは、ありそうなことなのです。

しかしながら、種を播いて約10年(ある事例では約20年)は実がつかないため、晩年のド・ロ神父が「ゆうこう」を使って産業を興すことはできなかったでしょう。ド・ロ神父没後90年、地産地消の価値が見直され、再びその果実に産業振興の芽としての期待が高まっています。(つづく)

「ブランド・ながさき」農産物緊急確立推進事業実施中(県農産園芸課事業)

長崎県では、温州みかんをはじめとする果樹で、枝変わり等で優良な果実特性をもつ系統の探索を奨励しています。もし、発見されたら、最寄りの農業改良普及センターや農協へご一報下さい。

【 編集後記 】 ブドウハウスにフクロウ出現！

4月23日(土)朝、ハウス内を右往左往するフクロウに遭遇しました。フクロウの鳴き声は「ボロ着て奉公」と聞こえる人もいますが、そでのすり切れた作業着で泥だらけ汗まみれの私を見てたのねえとひとり納得。長くいてもよかったです。でも、丁度来ていた職員の子供に追いかけて回してもらい、お引き取りいただきました。でも、幸せの鳥のおでまして何かいいことあるかもと思っていれば露地のブドウも実止まりがよく、今年はずばらしい試験成果がだせるかも？(担当 谷本)

